





審査結果報告書

平成 28 年 2 月 1 日

主査氏名	高相 嗣士	
副査氏名	松永 篤彦	
副査氏名	大野 誠	
副査氏名	馬淵 清賢	

1. 申請者氏名 : DM08020 西村 雅道

2. 論文テーマ :
変形性股関節症に対する最小侵襲股関節手術前後の歩行解析

3. 論文審査結果 :

変形性股関節症の病期分類は、病期進行度や患者年齢などにより術式の適応が分かれる。進行度が初期までには関節温存手術が、進行期以降には全人工股関節置換術 (THA) が主に行われている。歩行解析については、これまで多くの報告があるが、筋腱温存手術に対する歩行解析の報告は十分ではなく、とくに術後の歩行改善効果については不明な点が多い。本研究では、関節温存手術である低侵襲寛骨臼骨切り術 (CPO) と低侵襲仰臥位前側方進入法の THA (ALS-THA) に着目し、その歩行機能や動揺性跛行への影響を前向き症例対照比較試験による調査を行った。

本申請者は、CPO 患者が健常者と比較して術後平均 7.3 ヶ月の重複歩距離の増大、歩行速度と歩行中の矢状面における股関節可動域の増大を示し、体幹動揺については未だ回復過程であったことを示した。また ALS-THA は、従来法と比べて術後 9 週では疼痛は有意に改善したが、術後 28 週では体幹動揺を含めた歩行機能には有意差を認めなかったことを明らかにした。今後、更に中長期的な前向き研究調査は必要であるとして、現状での筋腱温存が可能な低侵襲股関節手術の術後リハビリテーションへの有用な情報を提供するためのエビデンスを導きだし、その結果を本学位論文にまとめた。よって、学位に適すると判定した。